

【2017 栄光学園中学校 算数 講評】

今回は、代表川島の母校栄光学園中学 算数の問題と解答解き方をシェアします。  
臆目なしに、他校や現在の入試の枠組みにとらわれず、「むしろ中学入試とはこうあるべき」と、各教科の本質を問うような出題を、毎年全科目一貫して貫いてきました。  
(その一貫した姿勢は卒業生が心配になるほど笑)

「中学入試とはこうあるべき」とは、小学生の有限でとても貴重な時間を、  
受験勉強に費やして来てくれるのならば、ただの詰め込みではなく、  
一生を彩る糧になるような学習をしてきてほしい、という想いでしょうか。

算数では、思考力を問う問題が一貫して出題されます。  
思考力とは、「未知な問題に遭遇した時、その局面を楽しみ、解決する根拠を駆使して、意欲を持って突破できる力」だと我々は考えておりますが、まさにそのような力を問われてきました。  
子どもが試行錯誤してたどり着いた段階を、たった一回のテストという機会で、  
なるべく正當に評価できるように、毎年腐心されている様子も見てとれ、  
先生方自身も毎年の出題で試行錯誤をされています。  
その典型的な問題が、栄光名物の、「すべて求めなさい」といったタイプの問題です。

今年は、受験生が解きやすいような、シンプルな出題を試されたのでしょうか。  
はっきりと易化しました。

今まで貫いてきた姿勢にも、受験生が取り組みやすいように、少し歩み寄りが見られたような気がします（悪い意味ではなく、良い意味で）。  
来年度など、今後の動向に注目です。  
川島個人的には、栄光らしさを追求してほしいなと思います（いろいろな事情があるのでしょうか）。

大問1

図形の通過領域に関する問題です。昨年も通過領域の問題は出ました。  
点ではなく、部分を中心点の周りに回転させるということで、イメージしにくかった受験生もいるかもしれませんが、回転の本質である、それぞれの点を中心点（軸）の周りに回転する、ということを押さえれば、難なく解ける問題です。

大問2

昨年も違う形で、試行錯誤させる問題が出ましたが、聞いていることはそれと同じです。  
低学年から、パズルに楽しんで取り組んでいたような子には、取り組みやすい問題だったでしょう。

大問3

サイコロの展開図と見取図を、向きまで含めて行き来する問題。とてもシンプルな出題です。  
空間認識力のある子とない子でまさに差がつく問題ですが、イメージしきれなくても、足りないイメージを理屈で補う訓練をすればなんとか解けます。  
低学年、4年生くらいまではイメージ総量自体を上げる体験、高学年から、イメージを理屈で補う訓練

を徐々にしていく必要があります。

#### 大問4

シンプルな影の問題。

(2) は、該当の箇所を探すべく試行するにも、整数感覚、量感があると、見つけやすかったかと思えます。

#### 大問5

筑駒ではほぼ毎年、栄光でもしばしば出題される、「小さい数で試行させて、とても大きい数になる時にどうなるか法則を見つけさせる」問題でした。

場合の数の本質である、「漏れなくダブリなく」数えることも、同時に高いレベルで要求されています。